

## 令和4年度 第2回 岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事録

- |   |      |                               |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 日 時  | 令和4年7月4日（月）10:00～             |
| 2 | 場 所  | ピュアリティまきび（岡山市北区下石井）           |
| 3 | 出席委員 | 萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員 |
| 4 | 議 事  | （1）公立大学法人岡山県立大学 令和3年度 業務実績報告  |
| 5 | 内 容  | 公立大学法人岡山県立大学からの説明後、質疑応答       |

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>9ページの[4]、成果指標の評定目安について、県内就職率の中期計画の目標が55%、単年度の目標53.5%に対して実績が53.9%と、十分達成している。</p> <p>一方、25ページの[25]、外部競争的研究資金の中期計画の目標が25件、単年度の目標23件に対して実績が15件だが、評定目安は、25件以上だったら4点、18～24件だったら3点、17件以下は2点ということで、評点2点としているが、目標が23件なのに25件以上取らないと4点が取れないというのはこれでいいのかわ。中期計画に対する評価か年度計画に対する評価かという観点で、いかがか。</p>	<p>成果指標について、中期目標6年の間に一挙に達成するには難しい項目があり、緩和して徐々に達成するというので、細かく段階別に分けている。したがって、中期計画の最終的な目標値と、各年度の目標値が違うということになる。今回は、令和3年度の年度計画の目標値に対して、2点とした。</p>
<p>11ページの[6]、保健師の合格率100%は達成しているが、評定目安は「受験対象者が少ないことを踏まえ、研究科の進路決定率及び年度計画の実施状況を総合的に判断する」ということで、これを3点と控えめに付けた理由は何かあるのか。</p>	<p>確かに、保健師の合格率は達成したが、大学院の定員、海外研修の実施状況などから判断し、3点とした。</p>
<p>15ページの[12]、入試システムのミスについて、年度計画では「アドミッション・ポリシーや入学者選抜方法の見直し、改善を図る」ということだが、計画にないことが原因で目標が未達だった場合、[12]で2点と評価すべきなのか、それとも、業務運営のところで追加項目として出すべきなのか。</p> <p>また、制度・仕組みの整備が不十分だったとするのか、あるいは、そもそも整備が行われていないということで1点とするべきなのか、いかがか。</p>	<p>年度計画を基準に評価すると3点になるが、学外及び社会に対して、非常に大きなミスをしたということで、単に年度計画上の実績が良かったとしても、3点は付けることができないという議論があり2点とした。大学運営にも関わることだが、両方に入れると煩雑になるので、入試の項目で一緒にまとめています。</p>
<p>20ページの[20]、学生に対する合理的な配慮について、適切な配慮を行って情報を共有する仕組みができたということだが、具体的にはどのようなことをしたのか。</p>	<p>車いすの学生に対しては、障害者用トイレへの改修やスロープ設置など、すでに整備していた。物を置く場所を作ってほしいという要望に対応するなど身体的障害に対しては十分対応できた。</p> <p>精神的な配慮は、令和3年12月から、配慮を要請する必要があるかどうか分からない学生で退学を希望するような場合、必ず教員と面談して結果を報告することとした。今まで退学の理由を検証できていなかったということもあり、まず現状把握することから始めて、それを配慮に結びつけるということで、実際に配慮申請が非常に増えたが、それら全てに対応できたことから、4点とした。</p>
<p>積極的な取り組みであり、評価できる。</p>	

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
35ページの[37]、学内ネットワークの更新について、入札が不調となり部分的な更新を行ったということだが、50ページの債務負担では、3,800万円の予算に対して3,500万円の執行となっている。部分的な更新に同程度の金額を費やしているが、今年度の見通しも含めて、いかがか。	令和3年度に全部完了させたかったが、入札しても落札できず、分割で発注し直し、予算をほぼ執行した。残りの部分については、見込みは立っており、今年度の予算で執行する予定だ。
12ページの[8]、評価時の観点の進路決定率50%と、その下の成果指標の実績94.3%とは、どういう関係なのか。	全研究科の平均が94.3%で、デザイン学研究科では、2人のうち1人が未定ということで50%となっている。
15ページの[12]、本来合格者であった追加合格者1名について、入学辞退で返金されなかった費用の補償というのは、どういうことか。	この追加合格者は、当初の合格発表時には合格ではなかったため、他の大学に入学するつもりで納入していたお金があり、本学への追加合格の判明後、その大学を辞退したが、当該大学への納付金は返金されないため、こちらが補償した。 ミスの原因は、システムの集計方法が必修科目以外で2科目の合計得点となるべきところを、1科目を2倍してしまい、点数が微妙にずれてしまった。 したがって、正しいやり方で判定すれば合格圏内であったにもかかわらず、後から合格になったため、本来払う必要がなかったお金について補償したものだ。
47ページの収支計画、費用の部の減価償却費について、予算額に対して決算額が増加している一方で、48ページの投資活動による支出は減少しているのは、どういうことか。	共同研究費等で取得した資産があり、減価償却を法定耐用年数に関わらず、便宜上、その共同研究期間中に一括償却を行う処理をしているが、昨年度1件大きいものを1年間で一括償却したことが影響している。
予算の段階では分からなかったということか。	そうだ。これまでの実績の平均値から推計し予算を立てており、そういった処理までは見込んでいなかった。
共同研究開発費は、企業からの収入と大学が負担する費用があり、費用をある計画で落とすのを早めて、1年で償却したということか。	そうだ。本来5年程度で減価償却をするが、研究機関の都合上、1年で一括償却をしたので、本来は5等分されるべきものが1年で計上されている。
9ページの[4]、参考指標の副専攻科目の単位修得者数について、これらの科目は、全て専門ではなくて、全学が取れる共通科目なのか。	両方あり、社会連携要論から地域インターンシップまでは、各部の共通教育科目で、エンジニアリング演習から木構造学・木構造デザインは、3学部の専門教育になっている。
この中で何単位を取ればいいのか。	社会連携要論からエンジニアリング演習までの科目が岡山創生学課程で地域創生推進士を取るために開講している科目で、所定の単位を取ると推進士として認められる。また、フードビジネス学以下の科目は、新設された副専攻「吉備の杜」で学部で開講している科目で、こちらも所定の単位を取るという課程を作り、スタートしている。
10ページの[5]、「卒業時・修了時アンケートでディプロマ・ポリシー(DP)が概ね達成できていることを確認し、公表した」とあるが、ホームページで公表しているのか。	そうだ。教育開発センターのページの公表データの中にある。教育年報にも掲載している。

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
DPに対するアンケート結果について、5つの選択肢でパーセントが出ているが、大学全般のDPに対する評価なのか、それとも、学部ごとのDPに対する評価なのか。	現在、大学全体のDPに対するアンケートしかできていない。学部ごとについては、授業評価アンケートで主観的に評価したものはある。
学部ごとのDPに対するアンケートは実施しないのか。	今年度中にはアンケートに入れるつもりだ。
アンケートはウェブでの回答だと思うが、回収率が42%（令和2年度卒業時アンケート結果）というのは、その評価が適切かどうかという点で、いかがか。	令和3年度は前倒して実施し、学生に必ず目の前で回答と送信をしてもらうということを行った結果、回収率は81.8%まで上げることができた。
12ページの[8]、保健福祉学研究科の定員充足率233.3というのは、どういうことか。	定員が5名に対し、11名が入学している。（※実際には、233.3%は入学定員ではなく全学年での収容定員に対する充足率であり、修了延期や長期履修等により増加しているもの。）
定員充足率が高いのはいいと思うが、どこまで許容されるのか。	定員超過率の基準を超えていないと思うが、定員は公表しており、何人でも合格させていいということにはならず、是正すべきと考えている。
17ページの[16]、年度計画の「学内の自習状況及び学内外の自習環境に対する利用状況・満足度について分析・検証し」とあるが、どのように行ったのか。	学生生活アンケートを3年に一度実施しており、今年度を実施することとなっている。令和3年度はコロナに関するアンケートを行った。
18ページの[17]、学生支援団体PZLとは何か。	PZLは個別の名称（※熱意(Zeal)をもって相手(Partner)を導く(Lead)の略）であるが、学生支援団体で学生が主体となっていていろいろ学生支援を行っている。
年度計画では、「ステューデント・アシスタント(SA)を制度化するための整備を実施する」とあるが、この支援団体の学生を中心に実施しているオンライン相談窓口を制度化することなのか。	学生支援団体を中心としたSA制度ということで、キャリア・学生生活支援センターを中心として考えている。
授業補助をする団体なのか。	ボランティアや広報に関する情報の提供など、学生の支援を学生が中心になって取り組んでいる団体である。
学生支援団体がその相談窓口としてあり、その仕組みを真似て学内でシステムを作るといったことなのか。	そうだ。窓口はその学生自身が入り、相談に乗るといった仕組みを考えている。
その学生の相談窓口とSAは同じという考えか。	授業補助として卒論生に入ってもらい、教員が指導したことを学生から学生に教えることにより、授業の効率と学習の成果が上がっている。一方で、学生支援に学生が関わるといって、二つの方向で進めている。 学生に手伝っていただくということは、非常に重要で、文部科学省もかなり力を入れており、やり方はいろいろある。本学では、学生に対する研修が不十分だ。現在、キャリア・学生生活支援センターで検討しており、どう全学的に実施するかが重要だ。
19ページの[19]、参考指標の退学・休学者数について、学部比べて大学院の率が高いが、どうか。	大学院の退学者が多いのは問題視しているが、一気に退学率を下げることを目標として挙げるのは無理があるので、まず退学の原因を探るところから始めている。

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
事由は何か。	<p>退学・休学率は良くない状況で、対策をしないといけないと考えている。令和2年度は、コロナ禍でオンライン授業に移行し、自宅等で授業が受けられるため、退学・休学しなくても何とか続けられると思った学生がいたと思うので、それにより少し率が抑えられた。</p> <p>しかし、その後、コロナ感染者がプラスに転じたことから、このまま学生生活を続けられるかどうかを不安に感じた学生にとっては、コロナ禍になる以前の不安要素が積み重ねられたものと理解している。</p>
休学者は届出をして、年度で休むということか。	<p>半期ごとや1年という形で届け出をし、その期間が終わると、休学を延長するか復帰するかの判断となる。</p>
退学・休学者数は、平年に比べて多いのか、少ないのか。	<p>お配りした「大学概要2022」の14ページの表、右から2番目のところに退学者数が出ている。令和元年度が全学で28名、令和2年度が16名、令和3年度が22名ということで、例年このような人数だ。</p>
コロナとは関係なく、大体この程度なのか。	<p>本学では、コロナ対策を徹底し、令和2年度は感染者をゼロに抑え、令和3年度も37名と全学生の2%弱に抑えた。そういった中で、対面での面談の実施や、アンケートを行うなど、学生の不安にきめ細かく対応した。今後も、適切に対応していく。</p> <p>退学率・休学率の値も大事だが、なぜそう考えるかという理由をしっかりと分析しないといけない。多様性がありすぎるところが逆にマイナス効果になっている。大学に入ってみて、できると思っていたことができない、他の大学受験が駄目で、本学に入ったものの、どうしてもそれを引きずってしまい、精神的にうまく前に進めないという学生も時々見かける。メンタル面は昔ほど単純ではないことが分かりつつあり、いろいろと情報を得ながら改善しなければならぬと考えている。</p>
36ページの[39]、このキャンパスソングは、どういったものなのか。	<p>本学は来年開学30周年を迎えるが、学歌がない。今までも作曲していただいたようだが、最終的には日の目を見ておらず、新しく作ることになった。今の学生は昔風の学歌はあまり好きではないので、キャンパスソングという軽いタッチで、学生が自ら作詞作曲をしてくれた。そのうちに応援歌も作りたいと考えている。</p>
聴いてみたい。	<p>今年度、キャンパスソングに映像をつけて皆様に紹介できるようにし、そして30周年記念にはそれを披露できるという形にしたい。入学式で披露するなどして学生にも徐々に浸透しているようだ。</p>

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>学科再編を行い、何か感じることはあるか。</p>	<p>本来は、学科再編で良いことをPRしないといけませんが、元々あったコースを含めて学科に再編したため、それほどインパクトがあるものではない。それよりも、学科再編により、各学科の教育理念等が大きくクローズアップされ、しっかり広報をして、ミスマッチがない形で学生を募集できる状況になった。例えば、デザイン学部は2学科が3学科になり、各々の学科で何を教育・研究するかが明確になった。一方で、再編した子ども学科などはいろいろな大学でできており、我々は後追いだ。建築学科も岡山大学と一緒にできるなど、競合関係もあるので、今後ともいろいろと力を入れて、選ばれる学科にしていくよう頑張りたい。</p>
<p>26ページの[26]、共同研究について、企業や団体と共同研究しやすい学部と、しづらい学部があると思うが、コロナ禍での実績としては健闘していると思う。学部ごとに目標などはあるのか。 共同研究は、県立大学の地域におけるプレゼンスを高める意味で非常に大事だが、それを先生方が認識した上で、現在教えていることが世の中の企業が実際に抱えている問題に対応しているのかどうか。また、過去に先生自身が学んで教鞭をとっていることだけでなく、いろいろなテーマを学ぶ意味でも、この共同研究をもっともっとやっていいと思う。 今後、新たな努力をするための目標、やり方などはあるか。</p>	<p>今一番大きな課題は、共同研究や競争的外部資金を取ってくることだ。3学部とも同じように共同研究ができるわけではなく、情報工学系が中心だ。慣れているシニアの先生方は共同研究をしっかりと取ってきているが、全学的にはそうでもない。共同研究について、学部長を中心に若手への説明を行い、若手も徐々にその気になってきている。 確かに、情報工学系なら年間何件という目標を決めた方がやりやすいと思うので、各学部長に通知したいと思う。今、情報工学部の学部長が力を入れており、若手が競争的外部資金をかなり取ってきて件数が増えている。デザイン学部もチャレンジしているので、今後が楽しみだ。</p>
<p>学部長の認識がまず大切だが、若手の教員も同じ認識のもと、目標をしっかりと持った上で地元企業等と共同研究を行うことで、結果的にブランド作りになるので、頑張ってもらいたい。</p>	
<p>今年度も3か月が過ぎ、コロナに対する行動も緩和しつつあるが、大学での対応の変更など、現在の状況はどうか。</p>	<p>大学の対面授業の割合について、特に5月の連休明けは学生の陽性者が多く、全て対面ということにはいかず、前期は令和2年度と同様、対面の申請を許可する形とした。ただし、実習や演習、大学院のゼミ等はすでに対面で実施している。共通教育科目は人数が多く、対面を抑制していたが、後期からは全面对面式で実施することを今検討している。学生のメンタル、大学生活を大事にしてもらいたいという思いだ。課外活動もかなり制約されていたので、部活等にも力を入れていきたい。</p> <p>数字上では、令和3年度の全面对面が25%で、令和4年度の前期は65%となっている。後期は100%まで持っていこうと考えている。</p>
<p>そうなることを望む。インターンシップも増えていくよう希望する。</p>	
<p>DPの達成度に関して、学生へのアンケート内容は、成長度や意義など抽象的な質問だが、具体的な項目について身に付いているかどうかなどの指標はないのか。</p>	<p>授業改善アンケートを実施しており、その集計結果を踏まえることとしている。各授業の到達目標があり、それが全部集まったものが学科のDPとなっているので、それらを公表することも重要となる。</p>

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
全授業科目について到達目標に対して身に付いているかどうかが出てくるが、それらをどのようにするのか。	それが一番大きな課題で、授業改善アンケートで評価が低かった科目は学科として改善を求めていくことになる。
それぞれの授業科目の自己点検評価が学部や学科になったときにどうなるのか。全科目に対してするのか、共通科目は別に分けるのか。	共通教育科目と学部教育科目でそれぞれ評価することを考えている。
サークル活動は何%くらいまで回復しているのか。	令和2年度は、入構禁止等による制限で入学した学生の約10%しか課外活動に参加していなかったが、令和3年度は56%あたりまで改善してきており、今後もさらに改善するよう進めていく。
35ページの[37]、学内ネットワークの更新について、入札の不調で部分的な更新しかできなかったとあるが、3,800万の計画に対して3,500万を執行しており、ほとんどできているのではないか。	確かに金額的には同等の予算を使っているが、予算が足りず、全部を更新できていない。
11ページの[6]、保健師の合格率について、保健福祉学研究科の全員が受験するのか。	入学時に保健師を希望すれば、受験資格を得るために所定の単位をとらないといけないが、それを取った学生だけが受験でき、その結果、全員が合格している。
<p>第3期中期計画の中、沖学長のもとで3学部3研究科に再編され、何を学ぶことができるかというカテゴリーが分かりやすくなり、良い方向へ向かっていると思う。これからの3年間、「ギャップ」ではなく「ディファレンス」をどう作っていくか、そして、地域や団体、学生たちに分かってもらうこと、これがブランドづくりだ。</p> <p>「ウェルビーイング」、つまり、自分ではなく社会の人々がより良く生きるために、自分が社会人としてどう役割を果たしていくのか、そのための学びを得るこの3学部がステークホルダーに対してもっとアピールしていくことが必要だと思うが、いかがか。</p>	<p>大規模な大学と違う点は、この3年間学長をやってきた中でよくわかっている。小規模でコンパクト、ユニークな3学部3研究科があるということの前面に出していくことは、今の世の中でとても効果が高いと思う。</p> <p>3学部3研究科に横串を刺した形での第一弾として副専攻「吉備の杜」を実施しているが、今後もそういう形で教育をしていかなければならない。</p>
開学30周年おめでとうございます。愛校心や地域に知らせる意味でも、新たに予算を捻出してイベントをすべきと思うが、いかがか。	堅苦しい式典ではなく、在校生と教職員と一緒に、ワクワクするような記念事業にしたい。例えば、食堂のリニューアルでは、コンペで学生にデザインを募集したり、「OPUフォーラム」と合同で2日間、食のテントで本学が開発に携わったカレーやビールを提供し、地域の食を皆さんに味わっていただくことなどを考えている。何とか予算を工夫しながらやっていきたいので、ご支援をお願いしたい。
周年事業は、企業でもそうだが、年度にこだわる必要はなく、柔軟に検討すればいいと思う。地元の方々をお迎えするオープンキャンパスもいいのではないか。	